

伊勢半本店

Since 1825

# 紅ミュージアム 通信

## 痘痕もえくぼ —「疱瘡は見目定め」

[エデュケーション・レポート2]

学ぶ・楽しむ

～紅ミュージアムのいろいろ

[かわら版]

期間限定ミニ展示のご案内

「痘瘡 麻疹 水痘」五雲亭貞秀 画・  
東京都立中央図書館特別文庫室所蔵  
一生のうち一度は罹る「お役」と言われた病、  
痘瘡・麻疹・水痘の三種について心得を説く。



## 痘痕もえくぼ —「疱瘡は見目定め」

疱瘡に罹ることは「お役」

昭和五五年（一九八〇）五月、WHO（世界保健機関）によって世界根絶宣言をみた天然痘（疱瘡・痘瘡と同義）は、かつてその強い伝染力から非常に恐れられた疫病のひとつであった。飛沫感染ののち、約一〜二日間の潜伏期間を経て高熱をもって発症、その後三〜四日で皮膚に紅斑が生じ、丘疹、水疱、膿疱へと規則的に症状が移行する。発疹は顔面・頭部に多いが、全身に及び、回復が進むにつれ膿疱はかさぶたとなつて脱落し、皮膚上に癩痕（小さな凹み）が残る。膿疱期に重篤化すれば失明や死に至ることもあり、たとえ治癒したとしても終生消えないひどい癩痕、痘痕が顔面に残つた。いわゆるクレータ肌（凸凹肌）である。

疱瘡の予防法であるワクチン接種（種痘）が日本において普及し始めるの

は嘉永二年(一八四九)のことだが、これ以前は国内でたびたび痘瘡の流行を繰り返し、とくに一八

でも至極お軽い御様子で別してお愛(あひ)たう」

世紀以降の流行周期は短縮の一途にあった。『藤岡屋日記』文化元年(一八〇四)の条では、人口の集中する都市部の流行周期について、宝暦年間(一七五

「ハイサおまへさんネ。暮いませずネ。大きに苦勞致しました。仕合と軽うございまして、ホンニホンニ御方便な物でございます。母親がおまへ御ぞんじの通りネ、痘瘡が重うござい

一〜一七六四)までは四〜五年あるいは六〜七年であったものを、いつしか毎年のように流行するようになり、「痘瘡やめる者絶たる事なし」という状況を記している。当時の社会において、もはや痘瘡は避けて通ることのできない病であり、子供のうちに軽く済ませておくべき「お役(義務)として認識されていたのである。<sup>※1</sup>

### 「痘瘡は見目定め」

文化九年(一八一二)刊、式亭三馬の『浮世風呂』三編に次の一節がある。

「お孫さまが痘瘡を遊ばしたさうでございますネ。夫

引用が少々長くなったがこれを意識すると、孫が痘瘡に罹ったが、治癒後顔に残った痘痕は五カ所ばかり、手足にも数える程度で、母親のように重篤化せず軽く済んでくれて安心した、ということである。ここから察するに、当時の人々は痘瘡罹患によって痘痕が残ることをとても恐れていた。とくに顔に多数の、それもひどく目立つような

痘痕が残れば、性別を問わず器量を損ないかねない。このため「痘瘡は見目定め」と言われたのである。おそらく件の母親は、顔や体に少なくともはない痘痕が残ってしまったのではないだろうか。



手前二人の子の顔に痘痕を確認できる。「痘瘡 麻疹 水痘」(部分)・五雲亭員秀画・東京都立中央図書館特別文庫室所蔵

### 珍しくなかった痘痕面

川柳には、しばしば痘痕を詠んだ作品が見受けられる。例えば、「痘瘡後鏡かくすも親心」顔に痘痕が残ってしまった娘を不憫に思い、鏡を隠すのは親心である。「二百両は消え易いがあばたは消えず」嫁入りの際の持参金百両はすぐに消えて無くなってしまうが、嫁の顔の痘痕は消えない。「算盤を出してあばたを仲人する」(お見合い仲人が算盤を出して痘痕面を値踏みする)などである。痘痕面の悲哀を皮肉ったこれらは、今日であれば問題視されること間違いないが、一方で川柳の題材となり得る程度に当時は痘痕面が珍しくなかったのである。

安政四年(一八五七)、長崎海軍伝習所の医官として招聘されたオランダ軍医ポンペは、のちに幕府医官となる松本良順らに西洋医学を教えた人物だが、

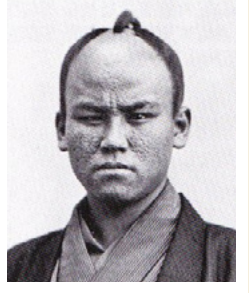
自著『日本滞在見聞記』において「住民(日本人)の三分の一は顔に痘痕をもっている」と記す。やや時代は下るが、明治二年(一八七八)に来日したイギリス人女性イザベラ・バードも、日光滞在中の記録の中で「村民の三割以上に痘瘡のひどい痕があります」と語っている。これらはいくまで一時期の、かつ地域性の限られた痘痕面の割合であって、厳密な全国統計による数値ではない。また、国が種痘の強制に動き出すのは明治九年(一八七六)であり、地方山間部にはまだ浸透するにはまだまだ時間を要した。だが、これらを考慮しても、人口の多い都市部における痘痕面の割合が、ポンペやイザベラが目にした現実と大きく乖離していたとは思えない。我々が想像する以上に、江戸から明治の世を生きた人々の顔には痘痕が刻まれて

いたのである。

### 痘痕を残さないために…

種痘が普及する以前から、痘瘡に罹らないよう、罹っても軽く済むよう様々な対処法があり、それらは一八世紀半ば以降、出版物を介してマニユアル化し、流通した。種々の医法や呪術的処置(呪いや御守の類)、看病法、食事療法、養生法など、今日の医学的見地からすれば俗信の一言で片付けられてしまふものも少なくないが、その中からひとつ、塗布剤の調剤法を紹介しよう。

寛延三年(一七五〇)刊『疱瘡厭勝秘伝集』では、黄檗を一匁、緑豆粉を四匁、



幕末から明治にかけて外交官として活躍した塩田三郎。顔には痘痕が目立つ。一八六四年撮影。

耳草(虎耳草)を四匁、紅花を二匁、以上四種の生薬を細粉化し、胡麻油などの香油で練って調製した薬劑を、目の周辺、耳の前、唇など面部に余すことなく塗るよう勧める。痘瘡

発症後間もない段階でこの薬を塗れば発疹が「顔に出る事なし」、発症後時間が経過してからの塗布であっても「面に出る事甚だすくなし」という。黄檗、緑豆、耳草はいずれも消炎、解毒作用があり、とくに緑豆は「痘毒」に効果があるとされていた。果たして塗布剤の効果のほどは不明だが、痘痕が残り器量が損なわれる危険性を軽減したい一心で、こうした調剤に縋る者も少なからずいたことだろう。

### 痘痕面のケアと鉛白粉

痘痕の程度を表す言葉に、白痘痕や黒痘痕、あらあった。文政二年(一八一九)刊の化粧書『容顏美艶

考』によれば、白痘痕は白粉を薄く塗る程度で目立たなくなること、黒痘痕は中白粉、あら痘痕は厚化粧に仕上げればある程度隠せた様子がうかがえる。当時の白粉(鉛白粉)は付き

伸びが良く、被覆力に優れていた。痘痕が残ってしまった女性達にとつて、鉛白粉のカバー力は非常にありがたいものだったと思われる。ただし同書では、引きずり痘痕に関しては化粧で隠すことは難しく、とりわけ「見にくし(醜い)」ものだという。このようなケア

### やがて減りゆく痘痕面

「現今地球上にあばたつ面を有して生息している人間は何人位あるか知らんが、吾輩が交際の区域内において打算して見ると、猫には一匹もない。人間にはたった一人ある。しかしその一人が即ち主人である。」

著者夏目漱石をモデルにしたというこの「主人」は、往來を歩くたびに痘痕

面を勘定し、見掛けた人や性別をいちいち日記に書きとめるといふ執念深さだ。漱石が己の痘痕面に強いコンプレックスを抱いていたことは有名な話である。明治四二年(一九〇九)、種痘法が制定され、種痘の徹底が図られる。往來を行う痘痕面はますます減ったことであろう。

「現今地球上にあばたつ面を有して生息している人間は何人位あるか知らんが、吾輩が交際の区域内において打算して見ると、猫には一匹もない。人間にはたった一人ある。しかしその一人が即ち主人である。」

※1 ちなみに、疱瘡、麻疹、水痘、水疱瘡をさして「御役三病」と呼んだ。  
※2 『日本輿地紀行』参照  
※3 疱瘡の対処法としてよく知られるのは、赤の習俗である。これは、病人や看病人の衣類、また調度品(寝具や屏風、衣桁)、見舞い品などのすべてを赤一色で揃える、赤尽くしの対処法であった。江戸時代は疱瘡神(疫神)が疱瘡をもたらすと考えられており、疱瘡神が赤色を嫌う、また好むという信仰から、赤色をもって疱瘡という病に対峙しようとしたのである。  
※4 一匁=3.75g  
※5 『和漢三才図会』(正徳二一七二二年刊行)参照  
※6 中白粉とは、地肌が見えない程度、中位の濃さの白粉を意味する。  
※7 『容顏美艶考』坤巻「菊石がほのおのけはひ」参照。「菊石頭(みつちやがお)」とは痘痕面の別称。  
※8 卵白を痘痕に塗り込む手法は、文化(〇年)二八三三刊の化粧書『都風俗化粧伝』でも紹介されている。

学ぶ楽しむ

伊勢半本店紅ミュージアム

ムでは二〇一八年夏、①制作

ワークショップ、②展覧会、

③鑑賞プログラムで構成さ

れる、親子ワークショップ

「いろのふしぎ」—さわって・

えがいて・みんなでみようー

を開催しました。これは、伊

勢半本店が江戸時代から作

り続けている玉虫色の小町

紅が、黄色の紅花から作ら

れ、水で溶くと赤色に変化

するという、まさに「色」の

不思議を感じることにイン

スピレーションを得て、講

師の前沢知子氏 美術家美

術教育研究家」とともに企

画したものです。

①制作ワークショップ

床一面に敷かれた真っ白

な綿布に、講師の前沢氏と一

人の子どもたちが、手や足

など身体全体を使い、赤色を

中心とした絵具で自由に大

きな絵を描きました。



制作ワークショップ実施風景  
実施日：2018年8月16日

絵具の感触に慣れてく

ると、子どもたちの動きは

徐々に大胆に。途中からは

スポンジや、ドロップピン

グ用のビニール袋も使い、白

い綿布を「色」で埋め尽く

していききました。



制作ワークショップ実施風景  
布の下から大きな絵を見つめる

自分ひとりではなく、皆

でひとつの作品を描いた

ことで、想像以上の「色」の

体験ができたのではない

でしょう。子どもたちか

らは「宇宙みたい」「フルー

ツジュースの中みたい！」、

保護者からは「みんなの元

気一杯のエネルギーの色

みたい」などの感想があり

ました。

②展覧会

子どもたちが描いた作

品が、前沢氏の手により、新

たな作品に生まれ変わら

りました。前沢氏曰く、「和室

の形式に当てはめて制作

された本作は、「暖簾のよう

なもの」をくぐって入ると、

中に「蚊帳のような空間」、

「大きい軸物」、ふたつの「小

さい軸物」、「障子のような

幕」が広がる、ひとつの空間

作品となりました。

鑑賞者が作品から受ける

イメージは、それぞれの経

験や価値観を通して生み出

されるものであるため、鑑

賞者自身に委ねられます。



展覧会「いろのふしぎ」  
会期：2018年8月24日～9月17日  
作品：組替え絵画 2018 一問一

③鑑賞プログラム

①の参加者を中心に実施し

た鑑賞プログラムでは、暗く

した展示室に懐中電灯を持っ

て入りました。暗闇の中、光を

通して見える「色」の世界に身

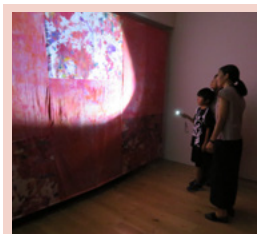
を置き、そこから立ちのぼる

気配を感じ、浮かび上がって

見える「なにか」を探すことで、

参加者はそれぞれの鑑賞体

験をすることができました。



鑑賞プログラム実施風景  
実施日：2018年8月23日

Information

かわら版

期間限定ミニ展示「<sup>こなかしらい</sup>粉白粉 — 昭和モダンガールになるための必須アイテム」

2018年11月23日(金・祝)～12月27日(木)

洋装が定着し始める昭和初期、ベースメイクも転向のときを迎えます。白粉の種類も豊富になり、自分の個性を生かしたメイク法や好みの色を選ぶようになります。粉白粉は当時の流行の最先端をいく、いわゆるモガによって普及しました。モガの愛した粉白粉を、大正～戦後直後まで3時代に分けてご紹介します。



大正末期～昭和初期の外国製(左)と日本製(右)粉白粉

Since 1825

伊勢半本店 紅ミュージアム

●開館時間/10:00～18:00 ●休館日/毎週月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合は、翌日が休館日となります)

東京都港区南青山6-6-20 K's南青山ビル1F

TEL&FAX: 03-5467-3735

東京メトロ銀座線・千代田線・半蔵門線

「表参道」下車B1出口より徒歩12分

<http://www.isehanhonten.co.jp>